

2025/09/●● ●●:00 頃実施

レッドフラグチェックをお願いします>>60代女性 持病 現病歴 既往歴なし 主訴腰痛 肩こり 発症年齢が20歳未満または55歳以上→なし 慢性症状 明らかな外傷歴(転倒、事故、重量物挙上など)→なし がん、免疫不全、ステロイド使用、HIV感染の既往→なし 原因不明の体重減少→なし 発熱・悪寒・全身状態の不調→なし 安静時痛・夜間痛(体位や活動関係なく持続)→なし 胸部痛・腹部拍動性腫瘍・血管リスク→なし 進行性の神経障害(筋力低下、感覚障害)→なし 馬尾症候群の症状(尿閉・尿失禁、便失禁、会陰部のしびれ)→なし 広範囲または高度の神経症状(認知性の麻痺、腱反射変化など)→なし 脊柱の構築性変形(円背、側弯、椎体崩壊など)→なし 限界局性の強い圧痛や腫脹(椎体部)→なし

ChatGPT:

ご提示いただいた情報を整理すると、今回のケースでは レッドフラグは検出されません。

評価のポイント

- ・ 年齢:60代 → 本来は「20歳未満または55歳以上での新規発症」は注意ですが、今回は「慢性症状」と明記されており、急性新規発症ではないためレッドフラグ該当なし。
- ・ 外傷歴・がん既往・全身状態不良・体重減少・発熱 → すべてなし。
- ・ 夜間痛や安静時痛 → なし。
- ・ 神経学的異常(進行性麻痺・感覚障害・馬尾症候群) → なし。
- ・ 骨破壊・構築性変形・限局性圧痛 → なし。

結論

- ・ 本例では 緊急的な紹介や直ちに高度医療機関で精査が必要な「レッドフラグ所見」は認められません。
- ・ ただし「慢性腰痛・肩こり」という背景があるため、施術適応を検討する際は 保存療法(運動・生活指導・鍼灸など)による経過観察が基本となります。
- ・ 経過中に以下のような症状が出現した場合は再度レッドフラグを疑い、速やかに医師紹介が望めます。

- 原因不明の体重減少や倦怠感
- 夜間痛や安静時持続痛
- 下肢の進行性筋力低下、しびれの拡大
- 排尿・排便障害（尿閉・失禁など）

必要なら、この結果を「施術は適応と考えるが、異常の出現時には医師受診を勧める」といった紹介文テンプレートにまとめることもできます。ご希望ですか？

あなた:

いや特に医師への紹介も必要なさそうです。ただ漢方内科などにつながるメリットは説明しました。

ChatGPT:

なるほど、ありがとうございます。

今回のケースではレッドフラグはなく、**鍼灸施術の適応範囲内**と考えられますね。

整理すると

- レッドフラグなし → 緊急性や直ちに医師紹介が必要な所見は認められない。
- 慢性腰痛・肩こり → 鍼灸を含めた保存療法が適応。
- 漢方内科との連携 →
 - 西洋医学的検査や処方が必要になった場合の安心感
 - 生活習慣病や体質改善を含めた統合的ケアの可能性
 - 患者さんにとって「選択肢が広がる」メリット

患者さんへの説明例（簡潔に）

「現在の症状では重い病気を疑うサイン（レッドフラグ）は見られませんので、鍼灸で経過をみて大丈夫です。ただし、漢方内科とつながっておくと、体質改善や補助的なお薬の選択肢も広がり、将来的に安心につながりますよ。」

こうしておく、安心感を与えつつ医療連携の価値も伝えられると思います。

もし必要であれば、紹介状ではなく「協力医療機関リスト」として漢方内科を提示する形もできますが、そういう資料を院内用に作りたいですか？